

〔図説〕 松本歯学 33：56～57，2007

key words：3DX<sup>®</sup>— 歯牙腫 — 画像診断

## 歯科用小照射野 X 線 CT (3DX<sup>®</sup>) 画像診断： 歯牙腫の 1 例

内田 啓一，黒岩 博子，杉野 紀幸，塩島 勝

松本歯科大学 歯科放射線学講座

Diagonostic imaging by limited cone beam CT (3DX<sup>®</sup>)  
A case of odontoma

KEIICHI UCHIDA, HIROKO KUROIWA, NORIYUKI SUGINO and MASARU SHIOJIMA

*Department of Oral Radiology, School of Dentistry, Matsumoto Dental University*

歯牙腫は比較的多くみられる良性腫瘍であり，その画像診断においては，内部状態や周囲の解剖学的構造物との位置関係を詳細に観察することが重要である．今回，右側下顎顎骨内にみられた歯牙腫について，歯科用小照射野エックス線 CT（(株)モリタ製作所，京都，以下 3DX<sup>®</sup>とする）を用いて観察したので，その画像を供覧する．

患者は28歳の女性で，歯科医院から下顎右側前歯部の埋伏歯と過剰歯の精査加療のため本学を紹介され2006年11月20日に受診した．初診時にパノラマエックス線撮影，口内法撮影および 3DX<sup>®</sup>検査を行った．エックス線写真（写真1）では，下顎右側側切歯の水平埋伏を認め，その上方に不均一で不定形のエックス線不透過像を認めた．3DX<sup>®</sup>

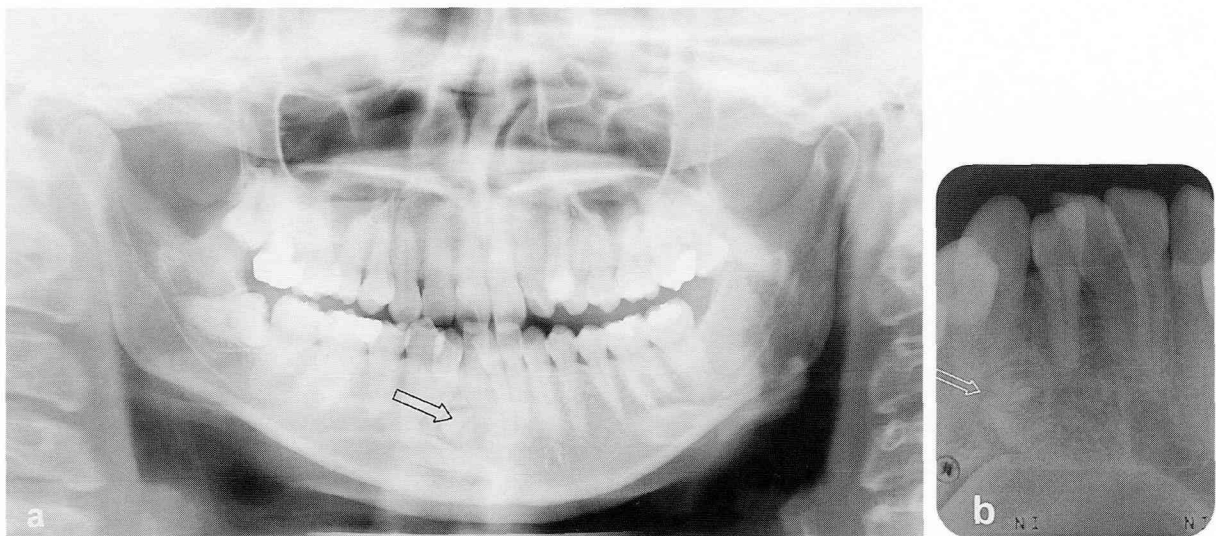


写真1：パノラマエックス線写真 (a) および口内法エックス線写真 (b) では，下顎右側側切歯の埋伏，その上方に不均一で大小不同の不定形のエックス線不透過像（写真 a 矢印）とその周囲にエックス線透過帯（写真 b 矢印）を認める．

(2007年 2 月26日受付；2007年 4 月28日受理)

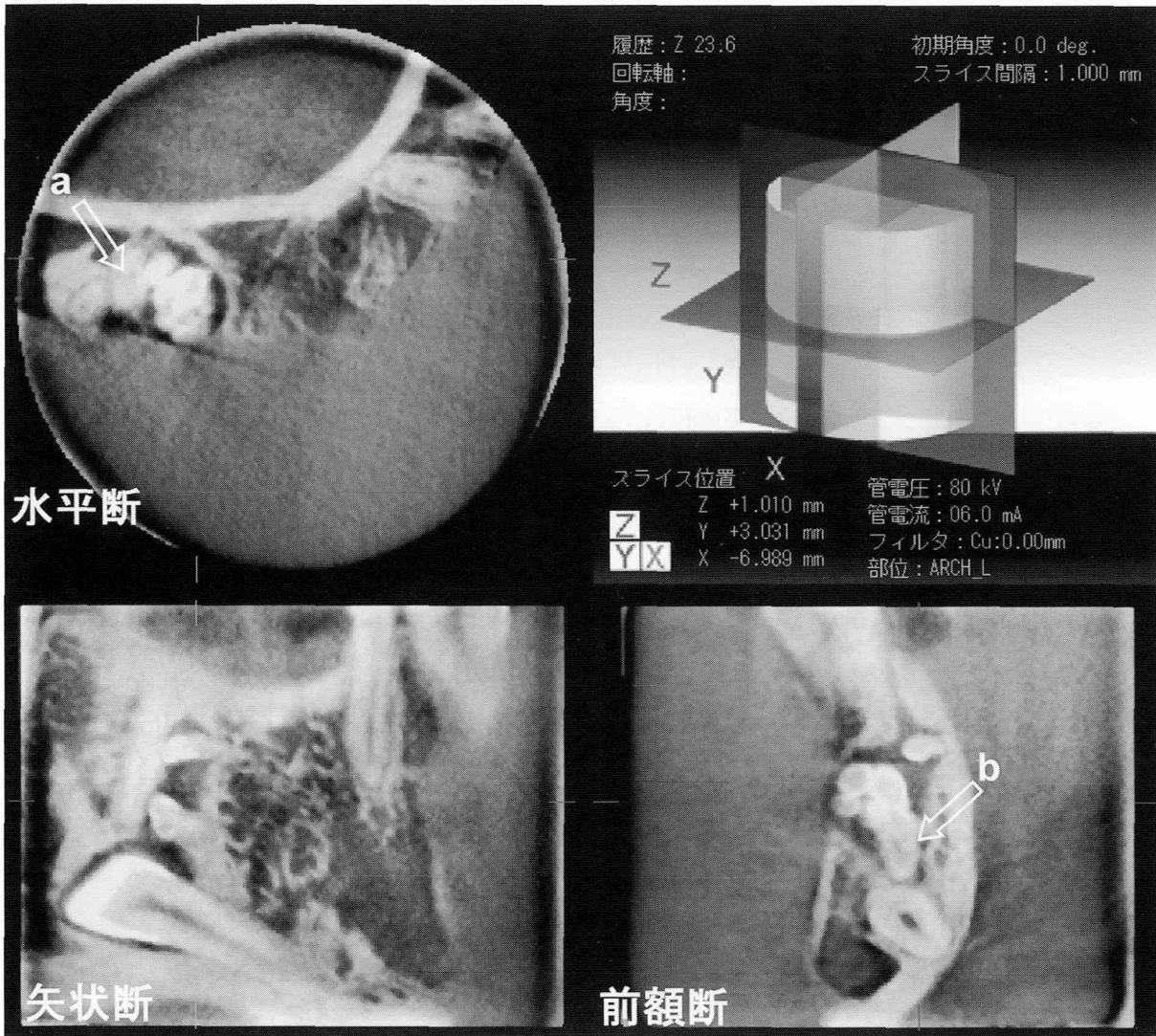


写真2：3DX<sup>®</sup>画像においては、歯に類似した構造物の集合体を認め、その辺縁は不規則である。その構造物をよく観察すると髓腔（水平断：矢印 a）やエナメル質や象牙質に近似する歯牙の形態が観察される（前額断：矢印 b）。

画像では（写真2）、境界明瞭な不透過像を呈する歯に類似した構造物の集合体を認めた。

顎口腔領域に発生する比較的大きな歯原性腫瘍や嚢胞性疾患は医科用CT検査により診断することができるが、病変の範囲が小さな場合は検査への適応は困難なことが多く<sup>1)</sup>、口内法や咬合法エックス線写真により近遠心的あるいは頬舌的位置関係の診断を行ってきた。しかしながら、大小不同の歯牙様構造物の内部性状や周囲との解剖学的位置関係を詳細に把握することが困難であった。

歯牙腫の存在することは、永久歯の萌出遅延や

歯列不整などの原因となることから摘出術を行うことが多く<sup>2)</sup>、3DX<sup>®</sup>検査によって、医科用CT検査では出来ない動画画像での三方向からの術前の詳細な検討を行うことができることにより、より多くの情報を提供することができた。

#### 文 献

- 1) 篠田宏司監修（2003）歯科用小型X線CTによる3次元画像診断と治療，第1版，57-9，医歯薬出版，東京。
- 2) 宮崎 正監修（2000）口腔外科学，第2版，241-45，医歯薬出版，東京